

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 9 月 26 日現在

機関番号：82602

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2015

課題番号：26870870

研究課題名(和文)ブルキナファソ農村部での協働による住民参加型母子保健プログラム開発と評価

研究課題名(英文)Development of the program for the maternal and child health improvement in collaboration with local health professionals

研究代表者

堀井 聡子(HORII, Satoko)

国立保健医療科学院・生涯健康研究部・主任研究官

研究者番号：70617422

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、世界でも母子保健指標が悪いブルキナファソで、現地の看護職者らと協働で、健康の社会的決定要因を考慮した母子保健向上プログラムを開発するため質的・量的研究を展開した。質的研究では女性の主観的健康観とその寄与要因を探索し、金融講活動などの相互支援活動が母子の健康と関連していることが示された。量的研究では、9か村563名を対象に質問紙調査を実施し、講活動への参加が母親同士の相互支援やネットワークの広がり、経済的エンパワー、健康増進行動の採用に寄与する可能性が示唆された。一方で、5歳未満児の死亡や家族計画のアンメットニーズとの関連は十分に示されず、プログラム開発への課題が残された。

研究成果の概要(英文)：This study aims to develop the program for the maternal and child health (MCH) improvement considered the social determinants of health (SDH) in collaboration with local nursing professionals. First, we elucidated women's subjective health and their contributing factors by using qualitative research. The results suggested mutual support activities such as Accumulating Savings and Credit Associations (ASCAs) relates to MCH status. Based on the results of qualitative research, a questionnaire survey was conducted to 563 women aged 20 to 45 years living in the rural villages. The results revealed that ASCAs had a potential to contribute to foster mutual support and networks, economic empowerment and acceptance of health promotive behaviors of women. On the other hand, it remains challenge since the association with under 5 mortality and unmet needs for family planning were relatively weak.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：健康の社会的決定要因 ソーシャルキャピタル サブサハラアフリカ 母子保健 協働

## 1. 研究開始当初の背景

2015年の国連ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals, 以下MDGs)報告書によると、MDGs策定後、開発途上国におけるマラリア等感染症による死亡率、5歳未満児死亡率などに大きな改善があった一方で、妊産婦死亡の減少等を目標に掲げたMDG5の進捗の遅れや、健康格差の拡大、とくにサハラ以南のアフリカ(以下、サブサハラとする)とそれ以外の地域、また同一国内の都市部と農村部における健康格差の拡大が表面化した(United Nations, 2015a)。健康格差などの地球規模の課題はポストMDGsとなるSustainable Development Goalsに引き継がれ、「誰一人取り残さない」の誓いの下に、格差の一因となっているサブサハラにおける母子保健やリプロダクティブヘルスに関する課題の解決に向け、効果的で持続可能な取り組みを構築することが求められている(United Nations, 2015b)。

サブサハラに位置するブルキナファソ(以下、ブ国とする)は、母子保健の向上が主要な健康課題のひとつであり、妊産婦死亡率(以下、MMR)が400(出生10万対)、新生児死亡率(以下、NMR)が27(出生1000対)で、5歳未満児死亡率(以下、U5MR)に関しては98(出生1000対)と世界195か国中14番目に高い(Unicef, 2015)。かかる状況に対しブ国では、国家保健政策2011-2020や、妊産婦および新生児死亡削減計画を策定し、母子の健康向上に向け取り組んでいるが、母子保健指標の改善状況は緩慢である(MSBF, 2010;MSBF, 2011)。とりわけ、国民の約8割が居住する農村部では母子保健指標が悪く、NMRが35、U5MRが156と、都市部のNMR30、U5MR104と比較し死亡率が高く、地域間で健康格差が生じている

(INDS&ICF, 2010)。

健康格差に関しては、近年、健康の社会的決定要因(Social Determinants of Health, 以下SDH)との関連にかかるエビデンスが蓄積されつつあり、その結果、ソーシャルコヒージョンやソーシャルキャピタルが豊富な社会ほど、健康度が高く、健康格差が少ないことが示唆されている(WHO, 2010)。ソーシャルコヒージョンとは“社会にある多数のグループの連結や連帯(connectedness and solidarity)の広がり”をいい、コヒージブな社会には“相互の道徳的な支援(mutual moral support)が豊富にある”という特徴がある(Kawachi & Berkman, 2000)。

以上の背景を踏まえ、本研究では、ブ国農村部における健康格差の縮小に向け、地域の相互支援活動を基盤に健康増進を図るための介入に関する理論的基盤の構築を最終目的に、相互支援活動の中でも、金融講活動に焦点を当て、質的および量的研究を用いて、ブ国農村部における女性が金融講に参加することで得られる相互支援の機能を探索し、金融講による相互支援と母子の健康との関連について検討した。また、調査結果に基づき、伝統的な相互支援を基盤に母子保健の向上を目指すうえでの看護職者の役割について考察した。

なお、本研究課題申請時には、相互支援活動として、ブ国の地方都市Tにある国立看護学校が運営する「まちの保健室」に焦点をあて、同施設を拠点にしたT市およびその周辺村落(農村部)の住民を対象とした母子保健向上プログラムを策定することを想定していた。しかし、研究期間中に「まちの保健室」の企画が経費と人員不足のために中断されたため、「まちの保健室」ではなく、金融講などの相互支援活動を基盤とした住民参加型母子

保健向上プログラムの策定と実施、およびそのプロセス評価へと研究の方向性を修正した。また、プログラムを策定し実施、評価するためには、指標策定やそのための理論的な基盤の構築が不可欠であることから、プログラムを策定しそれを試行する村落数を減らし、理論的基盤の構築に向けたアンケート調査の対象村を増やすなどの変更を行った。

## 2. 研究の目的

相互支援を基盤とした母子保健向上のためのプログラムの理論的基盤の構築とそれに関する看護職者の役割にかかる提言抽出に向け、質的および量的研究を用いて、ブ国農村部の女性が金融講に参加することで得られる相互支援の機能を記述したうえで、金融講を通じた相互支援と母子の健康との関連について検討すること。

## 3. 研究の方法

### (1) 質的研究

ブ国 T 保健区内の一農村に暮らす金融講に加盟している女性たちの「主観的健康観とその実現に寄与する要因」を探索するため、質的探索的記述研究を行った。本研究の一連の流れは、現地の看護学校教員ら保健省スタッフらとの協働による地域基盤型参加型研究 (Community-Based Participatory Research, 以下、CBPR とする) を行った。CBPR とは、住民、保健医療従事者、研究者がそれぞれ対等な立場で、地域診断、それに基づくプログラム計画、実施、評価に参加する、実践および研究プロセスである (Minkler & Wallerstein, 2008)。データ収集では、Photo Voice 法 (Wang & PIES, 2008) とフォーカスグループディスカッションを行い、得られたデータは質的帰

納的に分析した。

### (2) 量的研究

ブ国農村部に暮らす女性の「金融講を通じた相互支援と母子の健康との関連」を探索するため量的横断的研究を行った。データ収集は、ブ国 T 保健区の農村部に暮らす 20~45 歳の女性に対し、文献検討と質的調査結果をもとに本研究用に作成した質問紙を用い、対面式の質問紙調査を実施した。データ分析では、実子の 5 歳未満での死亡経験と家族計画のアプローチを目的変数としたロジスティック回帰分析を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 質的研究

A 村に暮らす金融講に属する女性の主観的健康観とその寄与要因を探索した結果、ブ国農村部で暮らす女性にとっての健康として【身体が丈夫で整えられている状態】、【夫と子供のために働ける状態】、【子どもの成長発達を適切に管理できる状態】、【夫との関係が良好な状態】、【社会的関係を維持している状態】、そして【楽しく生活できている状態】の 6 つのカテゴリが抽出された。また健康に資する要因として、《健康行動の実践》、《健康行動実践に要する現金の確保》、《夫からの支援》および《金融講を通じた相互支援》の 4 つのカテゴリが生成された。

このうち、金融講を通じた相互支援は「物質的・情動的・情緒的支援」から構成されていた。物質的支援とは、病気の際の現金の貸借や病院受診のための交通手段の貸借、病気の際の家族 (夫) への報告など、情動的支援とは、産前健診等の受診勧奨や家族計画の効果に関する情報提供など、情緒的支援とは、

困ったときに話を聞くなどの機能を有していた。

以上の結果をもとに、量的研究の理論的枠組みを構築し、質問紙を開発した。量的調査では、母子の健康の個人レベルの要因に関連する、金融講への参加（社会経済的な条件への適合性と参加への意思決定）、相互支援、母子の健康（実子の5歳未満での死亡経験と家族計画に関するアンメットニーズおよび母子保健に関する健康増進行動）に焦点を当て、相互支援と母子保健との関連について統計学的手法を用いて検討を行うこととした。

## （2）量的研究

質的調査の対象村を除くT保健区の9か村に暮らす、20から45歳の育児経験のある女性563人を対象に、現地の看護学生による対面式の質問紙調査を行った。有効回答率は100%で、全回答を分析対象とした。

対象者の金融講の加盟率は14.4%で、金融講加盟群の相互支援量は、合計・獲得型・提供型の全てで非加盟群に比べ有意に高かった。支援内容別では、経済的支援の獲得と提供等で加盟群が非加盟群より有意に平均値が高かった。支援者のパターンの特徴では、金融講加盟群では支援者なしの割合が少なく、相互支援の対象の選択肢が多様な傾向が示された。また、金融講加盟群は動物性蛋白質の摂取頻度が高く、なかでも講メンバーから支援を獲得している女性は家族計画を除く健康増進行動を採用している傾向が示された。

多変量解析の結果では、実子の5歳未満での死亡経験は、30歳以下の群で施設分娩の実施、単婚と負の関連にあり（それぞれOR=0.050(95%CI;0.005-0.519)、OR=0.387(95%CI;0.156-0.961)）、31歳以上の群では

夫の教育歴と負の関連があった（OR=0.326(95%CI;0.109-0.975)）。家族計画のアンメットニーズは産前健診の実施、夫の出稼ぎと負の関連にあった（それぞれOR=0.470(95%CI;0.258-0.856)、OR=0.332(95%CI;0.173-0.637)）。いずれの分析でも母子の健康アウトカムと金融講加盟および相互支援量との間に有意な関連は示されなかった。

## （3）結論

本研究の結果、金融講を通じた相互支援と母子の健康アウトカムとの間に有意な関連はなかったが、対象地域において女性が金融講に加盟することは、個人レベルの相互支援やネットワークの広がり、経済的エンパワー、そして健康増進行動の採用に寄与する可能性が示された。以上から、ブ国農村部において母子の健康増進を支援する際には、看護職者が金融講を含む相互扶助活動の特性を分析し、組織間の協働を促すことで、健康課題の解決に寄与する地域の潜在能力を引出していくことの必要性が示唆された。

## <引用文献>

- ① United Nations. (2015a). The Millennium Development Goals Report 2015.
- ② United Nations. (2015b). Transforming our World: The 2030 Agenda for Sustainable Development. Retrieved from <https://sustainabledevelopment.un.org/post2015/transformingourworld/publication>
- ③ Unicef. (2015). The State of the World's Children 2015

- ④ MSBF (Ministère de la santé Burkina Faso). (2010). Plan d' Accélération de Réduction de la Mortalité Maternelle et Néonatale au Burkina Faso.
- ⑤ MSBF (Ministère de la santé Burkina Faso). (2011a). PLAN NATIONAL DE DEVELOPPEMENT SANITAIRE 2011-2020.
- ⑥ INSD&ICF (Institut National de la Statistique et de la Démographie, & ICF International). Burkina Faso. (2010). Enquête Démographique et de Santé et à Indicateurs Multiples (EDSBF-MICS IV) 2010.
- ⑦ WHO. (2010). A Conceptual Framework for Action on the Social Determinants of Health. Retrieved from [http://www.who.int/sdhconference/resources/ConceptualframeworkforactiononSDH\\_eng.pdf](http://www.who.int/sdhconference/resources/ConceptualframeworkforactiononSDH_eng.pdf)
- ⑧ Kawachi, I., & Berkman, L. (2000). Social Cohesion, Social Capital, and Health: Oxford University Press,.
- ⑨ Wallerstein, N., & Duran, B. (2010). Community-based participatory research contributions to intervention research: the intersection of science and practice to improve health equity. *Am J Public Health*, 100 Suppl 1, S40-46. doi:10.2105/ajph.2009.184036
- ⑩ Wang, C. C., & PIES, C. A. (2008). Using Photovoice for participatory Assessment and Issue selection, In Meredith Minkler, Nina Wallerstein (Ed), *Community-Based Participatory Research for Health From Process to Outcomes*. 2nd Edition (pp.183-198). San Francisco: Jossey Bass
5. 主な発表論文等  
[学会発表]
- ① HORII S, KAM A, KAM GOUBA SE, MINOUNGOU A, TAPSOBA V, MILLOGO JJ. Subjective Health of Women in Rural Burkina Faso: Community-Based Participatory Research Utilizing Photo Voice. 143rd APHA Annual Meeting and Exposition, Chicago, USA, 2015
- ② HORII S, KAM A, KAM GOUBA SE, MINOUNGOU A, TAPSOBA V, MILLOGO JJ. Association between Maternal and Child Health and mutual support through Accumulating Saving and Credit Associations (ASCA) in Rural Burkina Faso, MMIRA Asia Regional Conference, Osaka, Japan. 2015.
- ③ HORII S, KAM A, KAM GOUBA SE, MINOUNGOU A, TAPSOBA V, MILLOGO JJ. Development of participatory community assessment methodologies in sub-Saharan Africa - an innovative approach to health disparity. The 6th international conference on community health nursing research, Seoul, Korea. 2015
- ④ HORII S, KAM A, KAM GOUBA SE, MINOUNGOU A, TAPSOBA V. Characteristics of Mutual Support Amongst Women Who Participate in Microfinance Association in Rural Burkina Faso. MMIRA Annual Conference, Tokyo, Japan. 2016. (accepted)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

堀井 聡子 (HORII, Satoko)

国立保健医療科学院・生涯健康研究部・主任

研究官、研究者番号：70617422